

北九州市 スポーツ行政のX(トランスフォーメーション)



X(スポーツ行政のBefore/After)

Before

全世代・全競技のニーズに応えたい

▼

薄く(少額の財政支援)、広く(34競技団体)へ行政サービスを行う。
アスリートの育成の視点が乏しい
※サービスって「あって当然」ってなると価値が、、、

▼

日本中どこにでもある
縮小せざるを得ないスポーツ行政



After

街の賑わいを創出する競技を推す！！
賑わい創出＝スポーツで稼ぐ

▼

民間の資金、
民間の知恵と連携

- ・押し競技の振興
- ・トップアスリートの育成
- ・トップコーチの招聘

▼

日本初！！
スポーツ行政のエコシステム

- 大規模大会誘致
- アスリート・コーチの育成環境整備
- 公民連携

X(何を推す？推す理由は？)

何を推す？→**アーバンスポーツ**

「**スポーツで稼ぐ**」北九州市は、
スポーツ＝**街の賑わいを創出するエンジン**

街の賑わいを創出させるためには
スポーツと街の一体化が必要

もちろん、野球やサッカーは街中ではできない

街の魅力を引き出し、街と一体化できるのは、
ストリートに起源を持つアーバンスポーツ



なぜアーバンスポーツか？

スポーツ行政のX(トランスフォーメーション)

市場環境

- 東京オリンピック以降、スケートボードやBMX、ブレイキンなど、複数の競技がオリンピックの正式種目となり、盛り上がりを見せている
- 競技人口も、若者を中心に増加しており、日本におけるスケートボードの愛好者数は40万人、ダンスの競技人口は600万人(2015年時点)と言われている

他都市の取り組み

- アーバンスポーツの昨今の盛り上がりを受け、仙台市や大阪市、福岡市、さいたま市など、他都市もアーバンスポーツに力を入れているが、大会誘致やスケボーパークなどの施設建設が中心
- 仏ボルドーのような、規制緩和により街中／ストリートにスケートボードを回帰させるような取り組みは未だ国内では見られない

北九州市の親和性

- 北九州市は、もともと音楽やファッションを含むストリートカルチャーとの相性が良い
- 北九州市立高校のような、ダンスなどで強みを有する学校の存在
- ブレイキンやパルクールなどの競技での、世界大会の開催・運営実績

Before ストリートからスケートパークへ

- 1940年代発祥のスケートボードは、1980年代のアメリカにおいて、階段や手すり、ベンチ、縁石、消火栓といった街中の建造物を使って「トリック」を決める「ストリート・スタイル」が確立
 - ストリート・スタイルがヒップホップミュージックやファッションとも融合し、若い世代を中心に時代を象徴する巨大なムーブメントとなり、世界へと伝播
- ストリートスタイルが普及した結果、街中における建造物の破壊、私有地への不法侵入、滑走による騒音、通行者との接触等の問題が発生
 - 海外でも日本でも、道路交通法や条例等により多くの場所でスケートボードの使用が禁止・制限されるように
- 結果、日本でもストリートで滑れなくなったスケーターの受け皿としてスケートパークが普及したという側面も



After 禁止から共存へ

規制緩和

- 2023年3月に、「スケートボード禁止」の看板が全て取り払われ、街中／ストリートにスケートボードを回帰させる
 - 元々はスケートボードを禁止する赤い看板だったが、11時から20時までは滑走可能、20時以降は騒音被害を避けるために手で持って歩きましょう、という緑の看板に変化



建造物の工夫

- パブリックスペースに、スケートボードに最適な、頑丈かつ騒音の小さい花崗岩のベンチを置いたり、ベンチや花壇の脇をスチールアングルで補強
 - ”やらせない”ではなく、”壊れない”という、今までとは逆の発想で街づくりを進める

出典：<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/70587>; <https://kifu-colle.com/blog/8222>; <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/37c37ab0806b3d7174faeb7e27b47c8bb479c8e7>; <https://www.parasapo.tokyo/topics/117794>; <https://oceans.tokyo.jp/article/detail/43362?page=3>

X(アーバンスポーツを推して目指すもの)

スポーツ行政のX(トランスフォーメーション)

スポーツ行政を**X**して北九州市が目指すもの⇒**アーバンスポーツの聖地**

ストリートを起源とするアーバンスポーツを**パークからストリートに取り戻し、**
街と音楽、ファッションと融合させ、アーバンスポーツのポテンシャルを最大限に引き出し、**スポーツで街が賑わう**

聖地化・エコシステムに必要なコンテンツ

- ① アーバンスポーツをパークからストリートへ
- ② アーバンスポーツの国際大会、ジュニアなどの大会誘致
- ③ トップアスリートの養成、トップコーチの招聘、育成



X(聖地化・エコシステムに必要なコンテンツ①)

アーバンスポーツをパークからストリートへ

スケートボードの専用レーンを日本で初めて設置

- 道路交通法上「公道でのスケートボードの使用は禁止」されているが、大胆な**規制緩和**により日本初公道でスケートボードが楽しめる街を目指す。
- その結果、国内のみならず世界中から**スポーツツーリズム**でスケートボードを楽しむ若者が目指す場所になる。
- キーワードは、**規制緩和**と**スポーツツーリズム**



規制緩和することでアーバンスポーツをパークからストリートへ取り戻す、日本初のチャレンジ！！



X(他都市との差別化)

他都市のトレンド

「うるさい!」「あぶない!!」
スケートボードはストリートからパークへ



その結果
競技性が向上→オリンピック種目へ



しかし、スケートボードが本来持っている魅力が、、、

北九州市はそんな価値観をX
否定から応援、排除から共存を目指す



求められるのは、自由を謳歌できるルール作り

全国のスケボーパークが3年で倍増

行政も後押しする理由は

2021年:243カ所

約2倍

2024年:475カ所

出所:毎日新聞記事

X(聖地化・エコシステムに必要なコンテンツ②)

アーバンスポーツ国際大会、ジュニア大会などの大会誘致

スポーツ国際大会の運営支援について北九州市は全国トップクラスの**ノウハウ**を持っている！でも、**稼げていなかった**

X(トランスフォーメーション)

スポーツで稼ぐために、

○スポーツ国際大会を「**街中に突然現れた人気観光地**」と位置づけスポーツツーリズムを推進

➡大会と連携したファンサービスの充実、スター選手によるSNS発信等を通してスポーツ以外の北九州市の魅力を観客の皆さまに伝え、北九州市滞在の価値を上げ、**プラス1泊、プラス1食**を目指す。

○「**エコフレンドリーなスポーツ大会**」を北九州市の新たなブランドとして徹底的にプロモーション

➡多くの競技団体の本部(開催地決定の意思決定機関)があるヨーロッパにおいて「**エコ**」や「**サステナブル**」は重要なissue。しかしながら、オリンピックですら**フードロスの削減**を実現できなかった。

北九州市はそれを成功させた!!スポーツ国際大会の開催地に**選ばれる都市**となるファーストアクション例)バレーボールネーションズリーグでは**5,000食(約2万トン)**の弁当廃棄を回避

フードロス最大の要因は、
廃棄される弁当
運営スタッフ弁当の廃止



ミールクーポンの配布



スタッフがミールクーポンを持って街中へ



エコ
+
賑わい創出

X(日本一のスポーツコミッションを目指す)

北九州市には日本一と言われるフィルム・コミッションが存在する

【日本一と言われる理由】

- ① 365日、24時間体制の撮影支援
- ② 道路封鎖等大規模撮影を成功させる経験とノウハウ
- ③ 国内外の映画・ドラマ関係者からの信頼と圧倒的な人的ネットワーク
- ④ 作品を活用した撮影地PR、海外からのロケツーリズム

「東京ドラマアワード2014・特別賞」
 「第23回福岡県文化賞」
 「平成28年ふるさとづくり大賞」

など、数々の賞を受賞

スポーツコミッションにも、
日本一と言われる大会運営の支援体制があり、国内競技団体からの信頼も厚い。

しかし、
 グローバルな人的ネットワーク構築や大会を活用した開催都市PR、スポーツツーリズムについては
 ストロングポイントとは言い難い。

今後、アーバンスポーツの国際大会を積極的に誘致するために、
 競技団体との関係を強化するとともに日本初グローバルにロビーイング機能を有するスポーツコミッションを育成。

日本一のスポーツコミッションを築くことで、スポーツで稼ぐ北九州市のエンジンとなる。

X(これまでの大規模スポーツ大会誘致の主な実績)



アジア初開催！！
ブレイキンの世界大会
来場者：5,000人



小倉城を背景に開催
アバンスポーツた街が一体化
した新しい景色を体感！！
来場者：3万人



エコフレンドリーなスポーツ大会
に初めてチャレンジ！！
来場者：8.3万人



世界初！体操と新体操の世界大会が
同時開催
来場者数：2.7万人

卓球世界一を決める一発勝負の
トーナメント！！

X(聖地化・エコシステムに必要なコンテンツ③)

トップアスリートの養成、トップコーチの招聘・育成

トレーニングセンターの設置

- 世界的なトップコーチを招聘し最先端の施設を備えたトレーニングセンターを**街中に設置**。
- このセンターは、アジア各地からオリンピックを目指しスキルを磨く場となり、アスリート達から、北九州市が「メダリストへの最短ルート」として認知される。
- また、競技引退後のアスリートにとってこのセンターはコーチングを学び、セカンドキャリアを築くための拠点。



アスリートのセカンドキャリアまでをサポートする日本初のチャレンジ！アーバンスポーツのエコシステムを構築！！

トレーニングセンターの目標➡アジア版 IMG(フロリダ)

錦織圭の拠点「IMGアカデミー」とは？多くのトップアスリートが輩出される理由

スポーツナビ
2017年5月27日 11:00



錦織圭ら数多くのトップアスリートを輩出する「IMGアカデミー」とはどんな学校なのか【坂本清】

最先端がそろうトレーニング環境



まるで一つの町であるかのようなキャンパス。生活に必要なものはすべて揃っている【坂本清】

東京ドームおよそ50個分もある広大な敷地に、テニスコート55面、野球場7面、天然芝のサッカー場16面、ゴルフコースに陸上競技場、さらには校舎にカフェテリア、学生寮まで……実際にキャンパスを歩いてみると、とにかくその広さに驚かされる。IMGアカデミーでは現在、テニス、サッカー、野球、ゴルフなど計8競技が展開されている。

X(トレーニングセンターのコスト)

パークPFIなどを活用、民間資金、民間アイデアと連携し、

【例えば】

小倉駅北口 あさの潮風公園周辺を大胆にリデザイン、
トレーニングセンターを中心に北九州市の玄関口は日本では見たことのない景色をつくりたい。



X

中池袋公園

アニメの聖地として
アニメ関連のコンテンツとコラボ

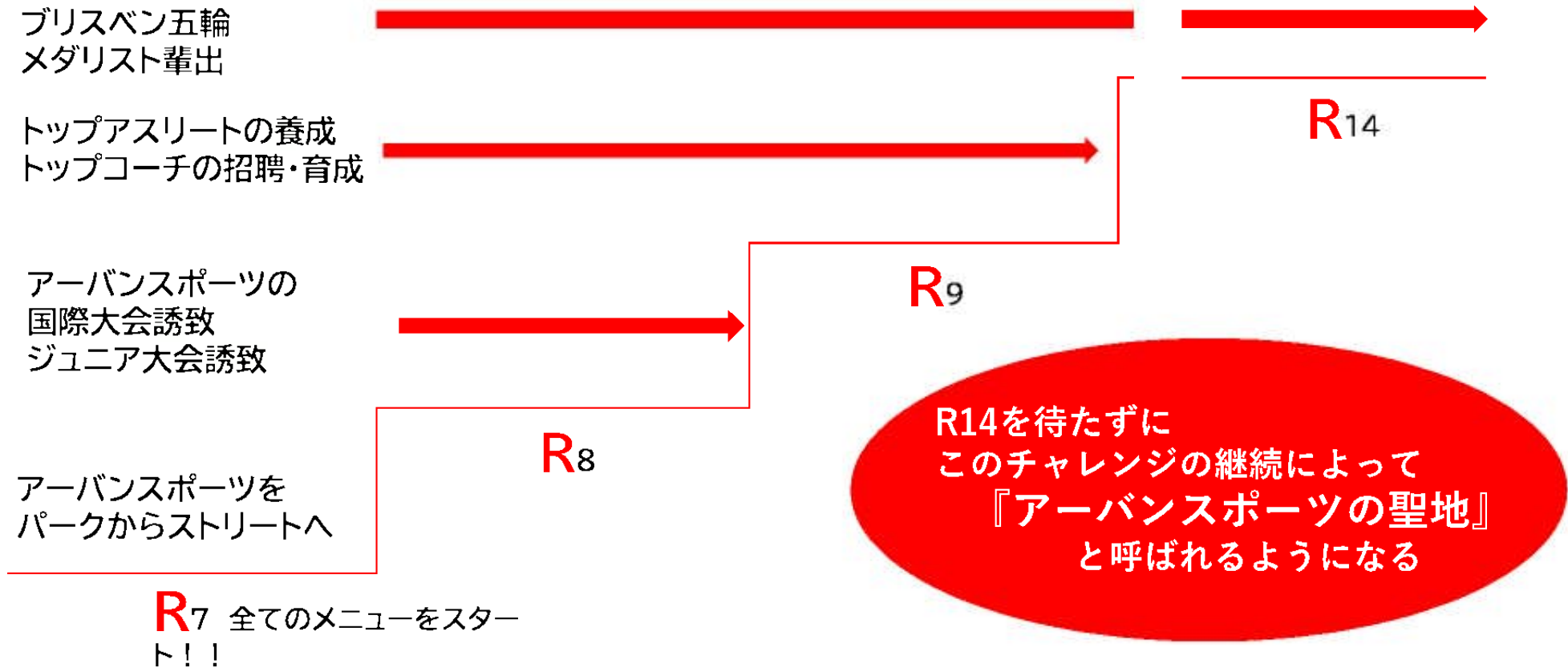


愛鷹運動公園

少年自然の家をリノベして
泊まれる公園へ



X(アーバンスポーツの聖地化に向けたタイムライン)



X(ブランディング、情報発信を根本からXする)

パワーワードを事業開始前から戦略的に発信し、マスコミ、SNSに取り上げられることで市民、民間企業の共感と資金を勝ち取る！！

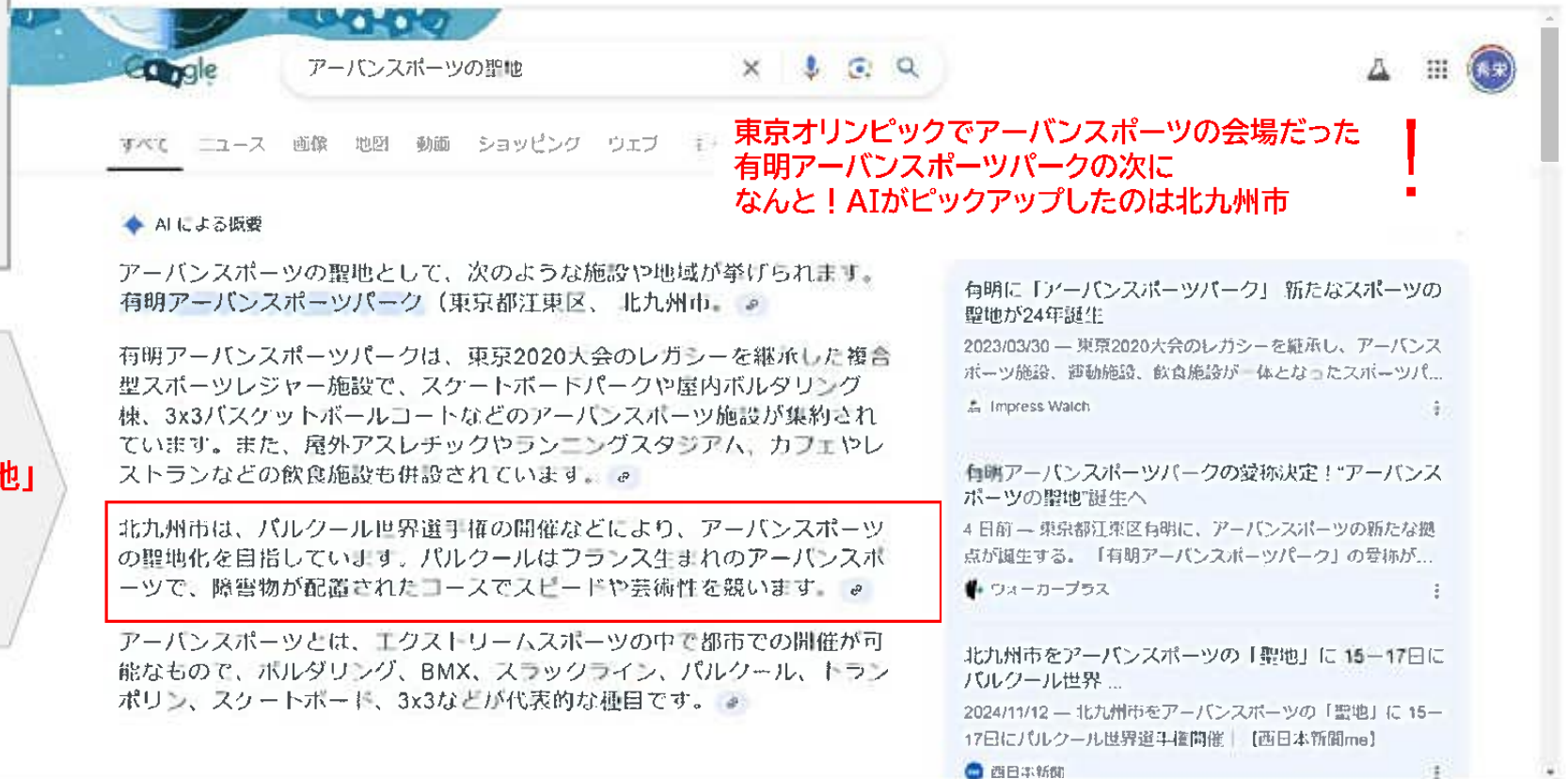
「アーバンスポーツの聖地」

「パークからストリートへ」

「スポーツのエコシステム」

「スポーツで稼ぐ」

「アーバンスポーツの聖地」
ってググると既に



X(北九州市の新しい景色)

アーバンスポーツをパークからストリートへ

北九州市の子どもたちにとって、アーバンスポーツがとて身近な存在になります。

トレーニングセンターには、世界を目指す子どもたちが、アジアから集まります。

北九州市は、オリンピックに最も近い街になります。

何より、街中にアーバンスポーツが溢れることで、**若者と賑わいが街に戻ってきた**ことを市民が実感します。

子どもに「アーバンスポーツを体験させたい」と考える大人が増えていきます。

そうすれば、日本で最も**アーバンスポーツの競技人口が多い街**になります。

競技人口が多くなれば、**広告価値が生まれ民間から資金が流入**します。

競技人口が増えれば、必然的に指導者も増えます。指導者たちは、トレーニングセンターが招聘している世界トップレベルのコーチからコーチングの指導を受けるチャンスがあります。

指導者にとっても北九州市は憧れの街になります。

北九州市のスポーツ行政は、アーバンスポーツを通して生き甲斐や健康を創出するだけでなく、**街に賑わいを創出し、五輪のメダリストを輩出し、多くの民間資金が投入されアーバンスポーツで稼ぐ**ことができる街を目指します。

スポーツ行政のX(トランスフォーメーション)





アーバンスポーツの**聖地**・北九州へ

End

APPENDIX

アーバンスポーツについて

アーバンスポーツの定義

- アーバンスポーツに明確な定義は無く、広い競技場などを必要とせずに街中で手軽に楽しめるのが特徴
 - ▶ エクストリームスポーツのなかで都市での開催が可能なもの、という定義もあり
- 音楽やファッションなどの若者文化やストリート文化が反映されていることも特徴の一つ
- 代表的な種目としては、スケートボード、自転車BMX、バスケットボール3x3、スポーツクライミング、ブレイキン(ブレイクダンス)、パルクールなど

主要種目

スケートボード



スポーツクライミング



自転車BMX



ブレイキン



バスケットボール3x3



パルクール

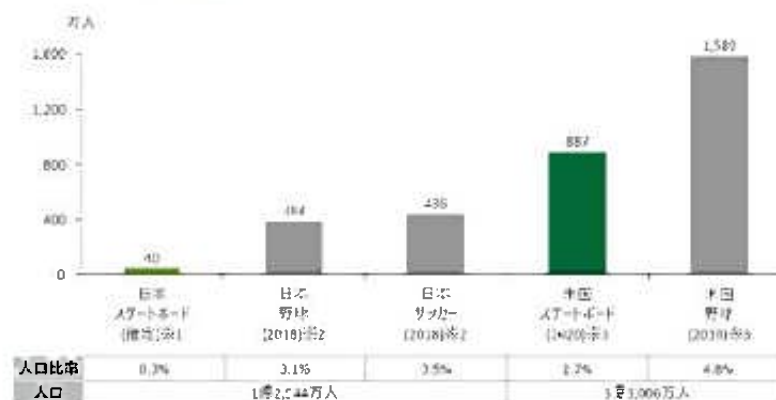


アーバンスポーツの競技人口(1/2)

スケートボード

- 日本のスケートボードの競技実施人口に関する明確な数字はないものの、業界関係者の間では愛好者数は約40万人と推定、競技人口は約3,000人とされている
- 2021年の東京オリンピックで初めて実施され、「パーク」、「ストリート」の2種目で実施されている

【図表2】競技実施人口の比較



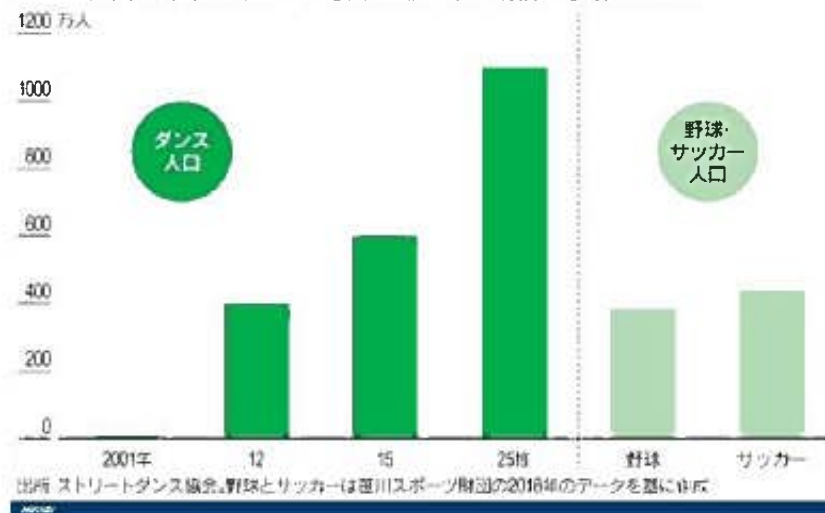
出典：日本スケートボード協会、日経新聞
 注：中国の人口は2020年の推定値、日本は2018年の推定値、中国の人口は2020年の推定値、日本の人口は2018年の推定値、中国の人口は2020年の推定値、日本の人口は2018年の推定値

出典：総務省「人口動態調査」、スポーツ庁「スポーツ参加者の推移」、文化庁「文化庁文化政策レポート」

ダンス

- 国内の推計競技人口は2015年時点で約600万人(01年比で約85倍に伸長)
 - 25年には1100万人程度まで拡大すると見込む
 - 金額ベースの市場規模は数千億との推計も
- 成長要因の一つは、12年度から始まった中学の授業でのダンス必修化
- 日本では21年、世界初となるダンスのプロリーグ「Dリーグ」が誕生。22~23年シーズンの観客動員は昨シーズン比で2.6倍に増加
- パリオリンピックでは「ブレイキン」が新種目に採用

ダンス人口は野球・サッカーに引けを取らない規模に急増してきた



出典：一般社団法人日本スケートボード協会、日経新聞

<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/mergers-and-acquisitions/articles/industry-eye63-20220204.html>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB2638R0W3A620C2000000/>

アーバンスポーツの競技人口(2/2)

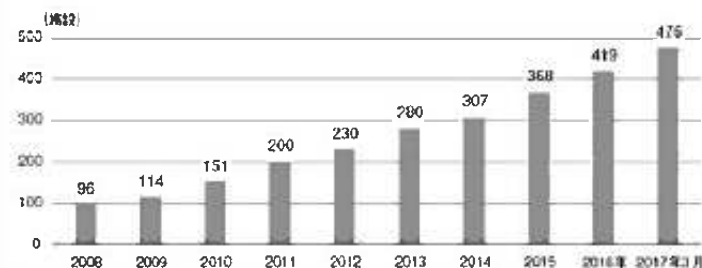
自転車BMX

- BMX競技は、速さを競う「BMXレース」と、パフォーマンスの質を競う「BMXフリースタイル」の2つに分類され、BMXフリースタイルはさらにパーク、ストリート、フラットランドなどに細分化
- BMXフリースタイルの 日本での競技人口は1万人以上といわれ、九州では1000人以上、福岡県では500人以上となっている
- BMXレースは2008年の北京オリンピックから正式種目として認定、また、フリースタイルのパーク競技は2020年の東京オリンピックより正式種目

スポーツクライミング

- 愛好者を含む競技人口は60万人程度
- クライミングの一種、ボルダリング用のジムは平成10年代前半の数十軒程度から、500軒超に増加
- スポーツクライミングが初めて実施された東京2020大会では、スピード・ボルダー・リードの3つによる複合種目として男女2種目が実施。パリ2024大会では単独種目としての「スピード」と「ボルダー&リード」の複合種目をそれぞれ男女で実施

全国スポーツクライミングジム数の推移（推計）



パルクール

- 日本国内での競技人口は1,000人程度と言われているが、近年10代を中心に急増し始めている
 - イギリスではパルクールを実践している人は10万人を超えているという調査もある



出典：福岡県、日本山岳・スポーツクライミング協会

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/215926.pdf>

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2110/nagekomi/documents/parkourgaiyo.pdf>

北九州市におけるアーバンスポーツ

北九州市のアーバンスポーツにおける取組(日経新聞記事抜粋)

北九州市、アーバンスポーツの聖地へ スケボー場 年1.4万人集う

ブレイキンやパルクールも 若い力が新風

2024年7月13日 1:49 (会員限定記事)



北九州市がアーバンスポーツを通じた都市の活性化という大技に挑んでいる。2023年にはパリ五輪で初採用となった「ブレイキン」で日本初の世界大会が開かれ、今秋にも「パルクール」の世界大会が控える。海の見える公園に整備したスケートボードパークには年間1万4000人が集い、競技者と観客をつなぐ若いエネルギーが新風を吹き込んでいる。

「遊び盛りの中高生に、全力でカッコよく遊べる場所をつくりたいです」。後に北九州スケートボード協会を立ち上げる仁木一嘉さんが12年、フェイスブックで発信した一言がきっかけだった。晋名運動や講習会で機運を盛り上げ、7年後の19年に都市公園の拡張に合わせて完成したのが「北九州スケートボードパーク」だ。

JR小倉駅から約2キロ。関門海峡に面し、コンテナ船などが通り過ぎる。市が4800万円を投じ、フェンスに囲まれた約1000平方メートルの三角形の敷地とおわん型の「ボウル」を整備した。管理・運営は同協会が担う。「バンク(斜面)」など「セクション」と呼ぶ20カ所ほどの構造物には会員が自作したものも多い。

...

武内和久市長はアーバンスポーツについて「アートやファッション、音楽への拡張性が高く、若者をワクワクさせ、街のにぎわいにつながる魅力がある」と期待する。東京や福岡市などへの20代の人口流出に長年悩む北九州市。「アーバンスポーツの聖地」を目指す動きは、都市の反転を賭ける戦略でもある。

北九州市におけるイベント/施設

ブレイキンワールドシリーズ「WDSF Breaking for Gold World Series in 北九州」(2023)



北九州アーバンスポーツフェスティバル(2024)



北九州スケートボードパーク

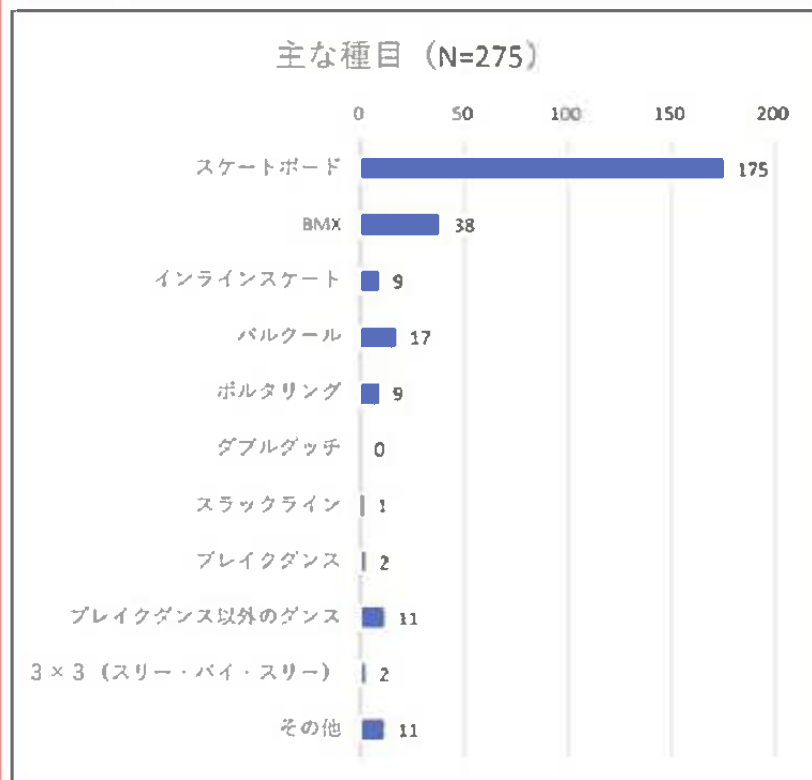


【参考】アーバンスポーツに関する調査結果

実施している主なアーバンスポーツ

●実施している主なアーバンスポーツ(N=275)

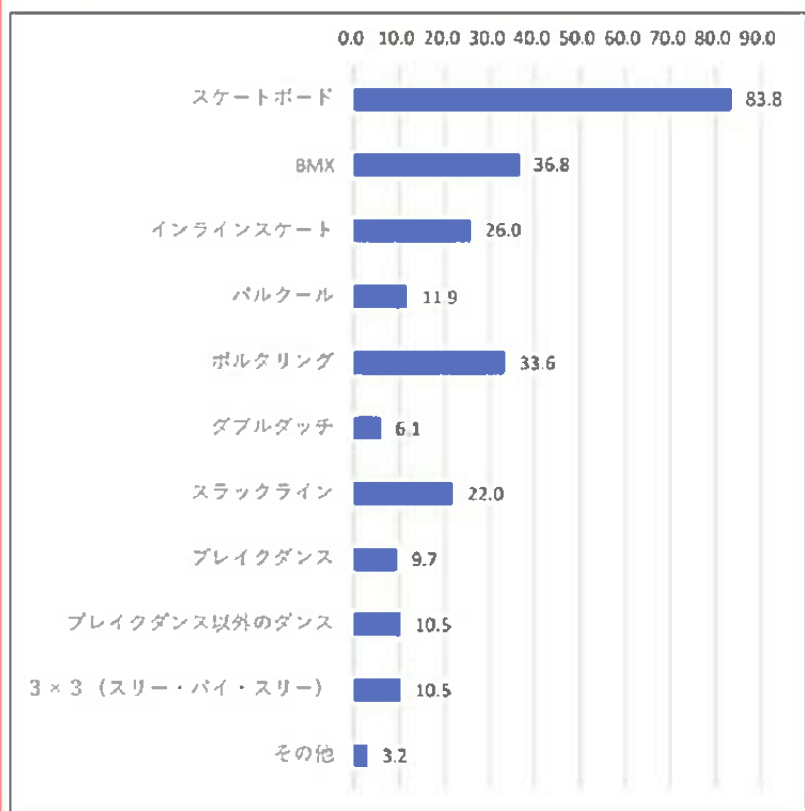
・継続的に実施している者275人の主な実施種目では、スケートボード175人、続いて、BMX38人、パルクール17人、ブレイクダンス以外のダンス11人、インラインスケート9人、ボルダリング9人となっている。



体験したことのある種目

●体験したことのある種目(N=277)

・体験したことのある種目では、スケートボードが83.8%、BMX36.8%、ボルダリング33.6%、インラインスケート26.0%、スラックライン22.0%が上位を占めている。



アーバンスポーツに比較的なじみのある札幌大学生及び 橋本委員の関わる教室事業及びアーバンスポーツ活動者(n=578)

北九州市スポーツ推進計画の概要

・新ビジョンの実現にスポーツの分野からアプローチし、市民や団体、企業などが一丸となって、スポーツの持つ力で「豊で未来輝く市民生活」と「まちの成長」の好循環を目指すための指針として策定。

- 新ビジョンの重点戦略「**躍るまち**」「**誇りあるまち**」「**安らぐまち**」を踏まえた3つの方針を柱立て。
- 3つの方針に沿って、これまでの取組も踏まえた施策を進めていくとともに、その中でも「**スポーツで躍るまちの実現**」の視点を強化する。
- スポーツを取りきく環境変化が激しいことを踏まえ、個別具体的な事業レベルではなく、スポーツ振興が目指す大きな方向性を定め、行政や関係団体、企業や市民とのベクトルを合わせるための計画とする。

スポーツで「まちが成長」の好循環

方針Ⅰ・方針Ⅱ・方針Ⅲが連動し、プラスに作用することで、スポーツで「まちが成長」の好循環につなげます。

目指す姿	市民誰もが生涯を通してスポーツに親しみ元気になることで、 豊かで未来輝く市民生活の実現を図る。 また、スポーツの力で都市の魅力を上げて、国内外から多様な人々を惹きつけ、 地域・経済の活性化を促すことで、まちの成長を目指す。	計画期間	令和7年度から令和11年度(5年間)
コンセプト	スポーツ ACCESS都市 北九州	目標	①スポーツを身近に感じる市民の割合 70%(令和11年度目標)(現状44.4%) ②スポーツ実施率 70%(令和11年度目標)(現状:56.6%) ③スポーツ観戦率 40%(令和11年度目標)(現状:20.0%) ④観光消費額 1,800億円(令和10年度目標)(現状:827億円)
方針	「方針Ⅰ」 重点方針 スポーツでまちの魅力にACCESS!	「方針Ⅱ」 いつでもだれもがスポーツにACCESS!	「方針Ⅲ」 スポーツで未来にACCESS!
考え方	一歩先を見据えた新たなスポーツコンテンツを創出し、都市ブランド力を高め、 スポーツで躍るまちを表現する	市民のスポーツ活動を推進し、気軽にスポーツに親しめる場を充実させ、 ウェルビーイングを実現する	子どもの個性や可能性をはぐくみ、スポーツを支える人材とともに、 まちの活力や魅力を向上させる
施策	施策1 スポーツを通じた都市ブランド力の向上 <ol style="list-style-type: none"> ① 観るスポーツの機会充実 ② スポーツによるまちの活性化の推進 ③ 大規模国際スポーツ大会等の誘致・開催支援 ④ スポーツツーリズムの推進 ⑤ 都市の魅力を高めるスポーツの振興 ⑥ プロスポーツチーム等・アスリートの応援機運の醸成 ⑦ 興行ニーズに対応した開催環境づくり ⑧ プロスポーツチーム等との連携による地域活性化 ⑨ 戦略的プロモーションにつながる効果的な情報発信 	施策2 市民のスポーツ活動の推進 <ol style="list-style-type: none"> ① 市民のスポーツ活動の参加や観る機会の創出・充実 ② 女性や若者、働く世代のスポーツ機会の創出 ③ スポーツを通じた心と身体の健全な発達 ④ 競技スポーツの支援 ⑤ インクルーシブスポーツ(障害のある人などのスポーツ活動)の推進 施策3 気軽にスポーツに親しめる場の充実 <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツ施設のユニバーサルデザイン化や環境にやさしい取組の促進 ② 学校体育施設の有効活用 ③ 多様なライフスタイルに対応したスポーツ施設の運用 ④ 公園など身近な運動の場の提供 ⑤ 産学官連携によるスポーツ環境の創出 	施策4 子どものスポーツ活動の推進 <ol style="list-style-type: none"> ① 学校体育による子どもの体力向上 ② 子どもの個性や可能性を引き出す運動・スポーツに親しむ機会の充実 ③ 子育て世代に向けたスポーツ情報発信の充実 施策5 スポーツを支える人材の活躍の場の充実 <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツ推進委員・スポーツ指導者・パラスポーツ指導者の育成・活用及び資質向上 ② 地域スポーツを支える団体(北九州市スポーツ協会等)の活動の充実 ③ 大学等との連携による地域スポーツを支える人材の育成・拡充・支援 ④ プロスポーツチーム等と大学等との連携によるスポーツボランティア活動などの場づくり

END